

社員を信じるのは誰なのか

またです。また若い社員が会社を去ろうとしています。いったいこの会社はどうなっているのでしょうか。彼は、乗務中に乗客(?)からやってもいけないことで濡れ衣を着せられ退職に追い込まれそうです。いわゆる冤罪です！

私たちは彼を信じる

会社は長時間の拘束と異常なまでの取調べにより事情聴取を行いました。あげくのはてには「知らない」と話したにもかかわらず「お前はやった」と複数の管理者が取り囲み決め付けてかかってきたそうです。何の証拠があってそんなことができたのでしょうか。私たちは彼を信じます。彼の怒りは、如実にその真実を語っています。

会社は最初の頃には退職を慰留しようと説得したそうです。しかし、その後は、手のひらを反したように退職を強要し始めたと聞きます。組合を変わるより退職をさせ、蓋をかぶせようとしているのではないのでしょうか。

これを異常と言わずして何というのでしょうか。本人の将来より労組対策なのでしょう。

一人では何も出来ない

どうせ、会社とユニオンは本人の自己都合という事で済ませるに違いありません。彼にすれば何を言っても誰からも信じてもらえず孤立してしまい、ユニオンに助けを求めたところで望むべくも無く、この怒りを一人で会社にぶつけるしかなかったのです。一人では何もできません。それではあまりにも彼はうかばれません。

社員を大切にしない会社に未来は無い。

この様な事態を招いた会社と現場管理者とユニオンに強く抗議します。